

鍛治 哲郎（かじ てつろう）

一九七四年北大農学部農学科卒業、直に環境庁に入る。北大ワングル部できたえた体で箱根をふり出しに、中部山岳、阿寒、知床、陸中海岸、富士箱根国立公園のレンジャーとして活躍。最近はおいて、開発行為にとまなう環境への影響問題等にとりくんでいる。

寺島 一男（でらしま かずお）

一九四四年、北海道生まれ。北海道旭川工業高等学校教諭。「大雪縦貫道路」問題を契機に自然保護運動に入り「表大雪循環道路」「日高横断道路」「知床国立公園国有林伐採問題」などに取り組む。冷静な判断力をもつ理論派で、「大雪と石狩の自然を守る会」の良きリーダーである。

今村 朋信（いまむら とものお）

一九三〇年、札幌生まれ。N.T.T社員。えぞ山岳会々員、日本ヒマラヤ協

会々員。北海道の山々を広く登り歩き、ガイドブック「北海道の山」、雑誌「北の山脈」など北海道の山岳に関する図書の編集・執筆に参加。現在は北海タイムスに「山野にあそぶ」（一五六回）を連載中。夕張岳は北海道の山々の中でも最も好きな山の一つ。

川辺 百樹（かわへ ももき）

一九五〇年石狩川流域砂川の生れ。一九六九年に十勝にうつり、自然保護に深い関心をもつにいたった。ひがし大雪博物館学芸員となり、ナキウサギなどの哺乳類の研究に従事、道々士幌自然湖線の動物調査にも参加した。目下の関心事は自然保護とリゾート開発のあり方についてである。

三浦 二郎（みうら じろう）

朝鮮の生れ。長じて北海道の教育界に入り、釧路阿寒町下ニニシベツ小中学校を振り出しに養老牛小中学校にいたるまで、校長を二一年間勤務し、自

然保護教育に大きな貢献をされた。この功績に対し、前田一步園賞、林野庁長官賞などを受賞した。現在は苫小牧の自宅に「樽前自然教育研究所」を設け、野鳥調査、自然教育に携わり千歳川放水路計画の反対運動に情熱を燃やす。現・協会副会長。

中川 元（なかがわ はじめ）

一九五〇年札幌生れ。北大農学部の学生時代は北大クマ研の一員としてヒグマ研究に活躍。一九七三年北大卒業後、中標津町職員を経て、一九七八年より斜里町立知床博物館学芸員となり主として哺乳動物や鳥類の研究をすすめてきた。知床国立公園森林伐採問題では、つねに現地にあつてその根本的解決に努力を傾けてきた。

儀 浩三（たわら ひろみ）

一九三〇年、東京生れ。千葉大学園芸学部卒業。厚生省国立公園部、北海道生活環境部などをへて現在、専修大

学北海道短期大学教授。著書「北海道の自然保護―その歴史と思想」で第一回田村賞受賞。共著に「緑の計画―都市公園と自然公園」「北海道の植生」「北海道―自然と人」など。当協会の「北海道自然保護読本（シリーズ）」の編集に参画。

四手井綱英（しでい つなひで）

一九一一年、京都生れ、京大農学部卒業後、秋田営林局、林業試験場などをへて京大教授となり、退官後は日本モンキーセンター所長、京都府大学長などを歴任、現在は京大名誉教授。日本雪氷学会々長。山岳会の大御所でもある。専門の森林生態学者として国有林の経営方針には批判的。著書には、「森林」「森林の価値」「もりやはやし」「落葉広葉樹図譜」など多数がある。

